進路通信 No. 7 ～骨太の『学力』を目指して～

文部科学省は「大学入学者選抜改革」の意義について，ＨＰ上で以下のように述べています。

グローバル化の進展や人工知能技術をはじめとする技術革新などに伴い，社会構造も急速に，かつ大きく変革しており，予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要です。
このためには，『学力の３要素』（１．知識・技能，２．思考力・判断力・表現力，３．主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を育成・評価することが重要であり，「高等学校教育」と，「大学教育」，そして両者を接続する「大学入学者選抜」を一体的に改革し，それぞれの在り方を転換していく必要があります。

ここでは，『学力』が単なる知識の詰め込みに止まるものではなく，変化に対応できる能力，生きる力，自ら学び考える力，問題解決能力，個性的能力などにつながる力であることを述べているわけですが，現代はますます何が正解なのか分からない社会となってきています。実際問題として，まさかこのような形で今年度が終わりを告げようとは，誰が予想しえたでしょうか。
不測の事態に遭遇した時，安易に周囲に流されたり，過去に正解を委ねたりするのではなく，自分の頭で考える。考えて，考えて，考え抜いて，自分がどうすべきなのかを決定できる。みなさん方は今，「考える地頭作り」の真っ最中なのです。

骨太の『学力』をつける

さて，前述の「大学入学者選抜改革」をうけ，各大学で出題される問題の難易度や分野，出題形式にさまざまな変更がなされ始めています。以下は，ある大学の英語の出題形式が変更になった時の受験生２人の言葉です。この言葉の意味する違い，分かりますかね。

○「英語の出題が変わって最初は戸惑った。でも落ち着いて取り組むと難しくなってはいなかった」
○「英語の出題形式が変わって分からなくなった。難しくなって，みんなできなかったのでは」

大学の出題形式や分野の分析を否定するわけではありません。しかし，その大学の過去の問題に縛られ，振り回された勉強に陥っている人が見受けられることも事実です。
「じっくり時間をかけて頭を使う」という，学問の王道に，もう一度立ち返ってみて下さい。

※分からない問題に取り組むことから逃げていませんか。
※答えを丸暗記することに時間を費やしていませんか。
※考えることをしないように，パターンだけで解こうとしていませんか。

「短時間で力が伸びる方法」は誰もが欲しいと思う理想の学習方法かもしれません。しかし，それらの多くは「つながりのない，その場限りの，短絡的な力をつける」ものが多く，その後大学に入学してから，そして，これからの社会の中で生き抜いていく力にはつながっていきません。

将棋の羽生善治九段の言葉です。

> **相手のことを知るよりも，**
>
> **自分自身が強くなればそれで済む世界だし，それを目指した方が本筋というか，**
>
> **王道という気がする。**

目先の『学力』ではなく，試行錯誤を大切にして下さい。考えるための時間は十分すぎるほどあるはずです。このチャンスに，考えて，考えて，考え抜いてみて下さい。
桜の花の芽吹く頃に，一回り逞しくなった皆さんと笑顔で会えることを楽しみにしています。